

P-027

アルコール-ジスルフィラム反応によりショックを呈した1例

○大塚ゆか (おおつか ゆか)<sup>1)</sup>、

赤澤賢一郎<sup>2)</sup>、日比野 真<sup>3)</sup>、亀井徹正<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>湘南藤沢徳洲会病院 総合内科、<sup>2)</sup>同 総合内科/呼吸器科、<sup>3)</sup>医療法人徳洲会湘南藤沢徳洲会病院 呼吸器内科、<sup>4)</sup>医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院

【症例 48歳男性】【主訴】意識障害【既往歴】うつ病、左大腿骨頭壊死【内服薬】ノックビン0.1g/日、乳糖水和物原末0.4g/日、リルマザホン2mg/日、リフレックス15mg/日、ジアゼパム5mg/日、ロキソプロフェン60mg3錠分3【現病歴】来院2日前倦怠感が強く1日中寝ていた。来院前日夜350mlの缶ビールを1本飲み、そのまま就寝。来院当日朝、運転中に目の前が白くチカチカし、バスと衝突。警察の事情聴取にて会話がかみ合わず、視線も定まらなくなり当院内科受診。【入院時現症】身長165cm、体重60kg、意識JCS1-3 GCS E3V3M6 全身紅斑あり BT36.4℃BP77/46mmHg、HR106/min、RR17/min、SpO2 99% (室内気) 結膜：貧血・充血・黄疸なし、口腔内粘膜の異常なし、頸静脈怒張なし、気管変移なし、胸部：呼吸音清副雑音なし、心音整雑音なし、腹部：平坦軟、上腹部圧痛あり、四肢：浮腫なし、運動麻痺なし【検査所見】WBC 27100/ $\mu$ l Neutr% 88.7%、Hb 15.7 g/dl、Plt 17.9 万/ $\mu$ l、Na 141 mEq/l、K 4.3 mEq/l、Cl 101 mEq/l、BUN 21.1 mg/dl、CREA 1.98 mg/dl、Glu131 mg/dl、CPK 182 IU/L、ALT 20 IU/L、LDH 554 IU/L、ALP 261 IU/L、AMY67 IU/L、T-Bil 0.4 mg/dl、CRP 0.09 mg/dl、血清浸透圧 292 mOSM/kg、エタノール 23.0 mg/dl、pH 7.476 PaCO<sub>2</sub>32.7 Torr PaO<sub>2</sub>121 Torr HCO<sub>3</sub>23.9 mmol/l、胸部レントゲン、腹部単純CT特記すべき所見なし【経過】生食輸液1Lで血圧上昇せず、ノルアドレナリン持続点滴開始し、血圧上昇。血圧の上昇とともに意識状態、腹痛も改善。入院当日にはノルアドレナリンを中止し、全身状態良好のため、第4病日退院となった。【結語】ショックの原因として循環血漿量減少性・閉塞性・心原性、敗血症性、アナフィラキシーショックは病歴、身体所見、検査結果からは否定的と考えた。嫌酒薬ノックビンを内服中に飲酒をしていることからアルコールジスルフィラム反応によるショックと診断した。ショックを呈したアルコールジスルフィラム反応の報告は希少であり、考察を加えて報告する。